

Enjoy! ～『NJだより』から～
周南市立鹿野小学校 校長 荒木 裕二
(平成 20 年度派遣 アメリカ合衆国 ニュージャージー日本人学校)

1. はじめに

ニュージャージー日本人学校での勤務を終えて帰国してから、あつという間に 10 年が過ぎました。帰国を間近に控えた 2011 年 3 月 11 日、アメリカのテレビに流れた、あの津波が押し寄せる映像を今でもはっきりと覚えています。

今回の原稿作成にあたって、当時の写真や資料をいろいろと見返しました。当時の様々な気持ちが蘇ってきたのはもちろんのこと、同じ学校で過ごした 3 人の我が子の成長にもふれることができ、コロナ禍の今、自身を奮い起こす貴重な機会になりました。資料の中には、毎月、国際教育研究会、県教委、在籍校等に送っていた『NJだより』がありました。その時々を思いをすなおに書き留めている記事から、特に思い出深いものを紹介します。

2. NJだより

『初等部 47 人中等部 27 人でスタート!』 (2008 年 4 月)

ニュージャージー日本人学校は、アメリカ合衆国北東部、ニュージャージー州北東部、バーゲンカウンティ郡北西部の町、オークランドにある。校舎は、教会の施設を借りている。1 年生から 9 年生までの 74 名が 2 階建ての校舎と一緒に生活している。体育館はなく、コナーズホールという昔の講堂を思わせる場所で式を行ったり、雨天時の体育を行ったりしている。運動場は、駐車場を下った場所にあり、手作りなのででこぼこで水はけも悪い。その上、グースがたくさん糞をしている。しかし、子ども達は、家に帰ると自由に外遊びができないようなので、この運動場でしっかりと友だちと遊ばせたい。



『カード&チェック (小切手) 生活』 (2008 年 5 月)

これまでの生活の中で、カードで物を買ったことなどほとんどなかった。当然のことながら小切手を切った経験など一度もない。さらにオンラインでの購入や支払い……。日本でも、当たり前のようにしている人はいるのだろうが、私にとってどれもが初体験であり、今でも不安がつきまとっている。小切手の仕組みは多少めんどうだが、実に合理的なのだろう。封筒の封を切るのに、前任校の先生からいただいた竹のペーパーナイフがとても役立っている。また、ファーストフード店でも、ちょっとした買い物でもカードを使っている。レシートにサインをすることがあるが、漢字で書いたサインを見て、「It is cool! 」といわれることがたまにある。店によっては無料で会員になり、会員価格で購入できる所もある。カードには、キーホルダーに付ける小型の物があるのがアメリカらしい?



『芝は大切』 (2008年6月)

6月に入り、かなり暑い日が多くなった。といっても、日によって天気や気温の変化が大きく、肌寒い日もある。暑さにもいろいろあり、梅雨のような蒸し暑い日もあれば、湿気が少ないからとした日もある。そして、店内の多くは、これでもかというくらい冷房がきいている。すぐに風邪をひいてしまいそうだが、今のところ、アメリカに来てから家族5人誰も体調を崩すことなく元気に過ごしている。



暑くなって気になっているのが、庭の芝への水やりである。アメリカは、芝に関してとても敏感なようで、特に前庭の芝を枯らすことは許されないらしい。芝刈りは業者がする契約になっているのでよいが、水やりをするのに相当な水の量が必要である。そして、スプリンクラーの場所を何回も移動している妻や息子たちは、とても大変だといっている・・・。

『プリンストンでピーチピッキング』 (2008年8月)

ニュージャージーは、別名「ガーデン・ステート」と呼ばれ、トマトやコーンが州の特産物になっていて農園がたくさんある。学校でも、近くの農園に1～3年生が1学期にストロベリーピッキングに行き、2学期には初等部全体でパンプキンピッキングに行く。イチゴ、パンプキンの他にも、チェリー、ブラックベリー、メロン、リンゴなどのピッキングがある。モモ好きの我が家は、ちょっと遠出(車で約1時間半)して、有名大学のあるプリンストンにピーチピッキングに行ってきた。摘果をしないからなのか、モモもリンゴもとても小ぶりである。香りのよい黄桃だが、あまり甘くはなかった。ブルーベリーも摘んでジャムにした。帰りに、プリンストン大学に立ち寄った。超お金持ち大学の建物はさすがにすごかった。



『雪で休校 & 恐るべしアメリカ』 (2008年12月)

冬休み目前にした19日(金)は、雪のため休校になった。18日(木)の夜に、学校のあるオクラホマの教育委員会が休校を決定したことによる。朝起きた時には雪が降っていませんでしたので拍子抜けでしたが、昼前に降り始めるとみるみる積もっていった。アメリカでは、雪かきをしなかったことが原因で、家の前の歩道で滑ってけがをした人がいたら訴えられるらしい。そこで、早速雪かきを始めたが、隣の家の人が、除雪機を使ってあっという間に除雪してくれた。芝刈り機と除雪機は1家に1台必要かもしれない。そして、23日(火)に89日間の2学期が終わった。子どもたちの冬休みの過ごし方は、日本に一時帰国したり、旅行にいたり、受験したりなど様々である。3学期は1月5日(月)から始まる。



車のタイヤはノーマルタイヤである。それで大丈夫だといわれていたが、今回の雪で心配になった。22日（月）は、前日溶けた雪が、朝の冷え込み（-12℃）で凍結していた。確かに、家の前の道路は、ガチガチ、ツルツルになっていたが、大きな道路に出ると、車が走るスペースには、雪も氷も全くないのである。除雪車と塩カリの威力で、北海道旭川から来られている教頭先生もびっくりされていた。話は変わるが、20日（土）に積もった雪はサラサラで、雪だるまも雪玉も作れなかった。まさに、パウダースノーである。少し気温が上がった日曜日には、雪も溶け気味で、雪だるまが簡単に作れた。山口県の雪である。その日、はしご車に乗ったサンタさんが、すごい音のサイレントをならしながら飴をまきに来てくれた。



『1年を終りました！』（2009年3月）

3月3日（火）に初等部・中等部合同の第15回卒業式、13日（木）に修了式が行われ、14日（金）からちょっと長い春休みに入った。卒業式前日の2日（月）は、なんと積雪で休校になったが、当日はとても感動的な式を行うことができ、子どもたちの立派な態度に感心した。また、修了式に続いて行われた帰国される先生方とのお別れ式は、涙、涙、涙であった。特に、今年度担任にした4年生の子どもたちは、昨年度担任してくださった先生とお別れすることになり、式が終わってもしばらく泣き崩れていた上、なぜか通知表をもらってまた涙であった。子どもたちの中にも帰国する子がいて、来年度は7人でのスタートになりそうである。1年目に出会ったこの子たちのがんばる姿に、私の方が何度も励まされた。



『野球少年から学びました！』（2009年4月）

これまでもお知らせした通り、子どもたちは今野球を楽しんでいる。13人集まれば、打順は1番から13番まであり、守備も毎回かわって全員が出場する。そして、ピッチャーには、1試合と1週間の投球イニング制限がある。一番上の子のリーグはナイターで行われることがよくあり、電光掲示板、アナウンス付きである。その役を子どもたちがすることもあり、ハプニング続出である。スナックショップもオープンしていて、なんともアメリカといった感じである。そんな中、すてきな少年に出会った。その少年は、相手チームの子で最終回にピッチャーをしていた。しかし、ストライクが全く入らず、押し出しの連続で、試合は結局そのまま時間切れとなり終わった。帰り際、その子がたまたま出会った我が子に、「グッド・ジョブ！」と声をかけてきたのである。我が子が活躍していたわけではなかったので、かけられたその言葉にも驚いたが、全くへこんだ様子もなく、相手チームの初対面の我が子に気軽に声をかけてくる、底抜けに明るくポジティブな姿に感動した！



『マイケル・ジャクソン』 (2009年7月)

マイケル・ジャクソンが亡くなってからずいぶんたったが、テレビでは、いまだに毎日のようにマイケル・ジャクソン関連のニュースが流れている。英語がさっぱり分からない私は、何を話しているのか分からないのだが、ジャクソン・ファイブの頃からの熱狂的なファンや、死亡理由に興味のある人達の関心に十分こたえるだけの話題がいくらかもあるのだろう。とにかくスーパースターだったということであらためて実感する。スーパーマーケットに安価で大量に売り出されていたライブビデオDVDを購入し、アポロシアターに行ってメッセージを書いてきた。



『消防車出動』 (2009年9月)

朝、スクールバスが到着する前に非常ベルが鳴ったので避難した。しばらくすると、警察車両や消防車が到着した。日本人学校が借りている建物に隣接するナーサリー(幼稚園)側の装置が作動したようだが、結局誤作動だったようである。その間に、スクールバスや保護者の車が全て到着して思わぬ避難訓練となった。ちょうどこの日は訓練をする日であった。ここでは、月に1回必ず火災避難訓練をしないといけない。先月は、雨漏りの修理が原因で非常ベルが鳴った。煙が出て焦げ臭い匂いもした。はしご車が3台来て、映画「バックドラフト」で見たような消防隊員が1時間以上念入りに調べていた。その時は、放課後のことで子どもたちがいなくてよかったが、もし放水されていたら後片付けが大変だったろう。



『初めての学習発表会』 (2009年10月)

10日(土)に学習発表会を行った。今年の初等部のミュージカル劇は、SMAPの「世界に一つだけの花」をテーマにして、「ブレーメンの音楽隊」のストーリーをNJ校バージョンにしたものである。担任する1年生にとっては全てが初めてで大変なことも多かったが、各グループの上級生がよく世話をしてくれた。子どもたちもすぐにこの劇を気に入って、毎日練習を楽しみにして、休み時間も喜んで活動していた。今年は、背景や小道具も子どもたちの手で準備するなど、児童主体の活動を増やしたことで発表を成功させた喜びも大きかったようである。1年生から9年生までの全校音楽も、練習の成果を十分に発揮することができ楽しんで演奏していた。



『Happy Halloween!』 (2009年10月)

31日(木)はHalloweenである。日本にいる時もハロウィンの行事を見聞きしたことはあったが、本場アメリカに来て一番驚いた行事になった。日本人学校でも、前日の30日(金)は仮装してくる子どもも多くいた。隣接する幼稚園(キンダーガーデン・ナーサリー)が毎年恒例の仮装パレードを始めたので、1年生の子どもたちと一緒に見に出た。みんなとってもかわいく、子どもたちに一番人気のマリオに仮装した子が通ると、「マリオ!」コールが自然とおこった。午後6時になると、隣接する(校舎を借りている)教会で“Halloween Party”が始まりとても賑わっていた。夜には、子どもたちが家の近くをいたずらしてまわるのだが、今年は天気が悪かったこともあり、昨年のような派手さがなかった。



『3回目の運動会が無事終了しました!』 (2010年5月)

私にとってニュージャージー日本人学校で3回目の運動会が無事終了した。この通信の5月号は、3年間全て運動会についてお知らせしてきた。1年目はグラウンド作りから始まり、前日に雨が降ったので、朝早くから水抜きをしたり、グースの糞を片付けたりして大変だったことを思い出す。今年は、業者に依頼してトラックに土を広げたり固めたりした他、グースが来なかったこともあり、今までで一番よいコンディションで本番を迎えることができた。天気にも恵まれ、練習から本番まで予定通りに進めることができて本当によかった。一方、年度初めからの忙しさは相変わらずで、先生方が運動会への準備に専念できたのは前日という状態だった。先生方と子どもたちの底力を今年も実感した。



『家族旅行のような校外学習になりました!』 (2010年6月)

生活科見学を実施した2週間後に移動教室を行った。1,2年生はリバティー・サイエンスセンター、3,4年生はアメリカ自然史博物館(映画「ナイト・オブ・ミュージアム」の舞台)5,6年生はメトロポリタン美術館に行ってきた。1年には我が子(三男)が在籍しており、生活科の学習など1,2年合同で行う時は、人数も少ないだけに正直やりにくいこともある。更に、今回の移動教室は、保護者ボランティアとして妻も参加することになり、ますますやりにくかった。リバティー・サイエンスセンターは、細菌、エネルギー、建築、コミュニケーションなどのたくさんのコーナーがあるのだが、その内容は1,2年生にとっては少し難しかった。しかし、体験コーナーや、ちょっとした動物園、水族館があり、子どもたちは十分に楽しんでた。



『とてもすてきな体験になりました！』 (2010年11月)

Thanksgiving Holiday(11/25-28)を利用して、車で3時間半南西に下った所にあるボルチモアに行って来た。ボルチモアといえば、今はオリオールズに上原選手が所属、昔はカリプケン選手が活躍し、そして、ベーブ・ルース選手が生まれた場所として有名である。その他にも、北アメリカ大陸鉄道発祥の地であり、アメリカ国歌の誕生の地でもあるらしい。

アメリカ国歌誕生の地であるマックヘンリー要塞に行ってみた。9時頃に着いたのでまだ他に観光客もなく、偶然9時30分から行われる国旗掲揚に居合わせたことで、その役をやらせてもらえた。その後、フィルム(1814年9月13日イギリス軍との戦い)鑑賞をすると、最後にアメリカ国歌が流れ、カーテンが開き、目の前に私が掲揚した国旗が現れた。



3. おわりに

ニュージャージー日本人学校は、小中学校が同じ校舎で小中一貫教育や教科担任制を行っていました。私が現在勤務する周南市立鹿野小学校は、来年度から、隣接する中学校と同じ校舎で小中一貫独立校をスタートさせます。小中学校は、文化や教員の考え方が違うとよく言われますが、3年間一度も感じたことはありませんでした。また、全国各地から派遣されている教員や現地スタッフとの考え方の違い、多国籍、多人種が生活するアメリカ社会の差別についても、国や県、人種の違いによるものではなく、一人の人間としてのアイデンティティによるものだと実感しました。

私にとって3年間のアメリカ生活の中で一番心に残っていることは、“Enjoy!”という挨拶です。そして、この言葉と一緒に蘇ってくるのが、心底楽しんでる底抜けに明るいアメリカ人の姿です。私はこの言葉から、「楽しさは人から与えられるものではなく自分の中にあるもの。自分が楽しめばまわりも楽しくなる。」ことを教えてもらいました。今でも自分に言い聞かせ、子どもたちに伝えています。コロナ禍の今、10年前の生活を振り返り、心の底から“Enjoy!”できたことをとても嬉しく思っています。

